令和４年度松江市美保関町美保関の伝統的建造物群保存対策調査について

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
文化遺産部建造物研究室長　　大林　潤

はじめに　　島根県松江市美保関町美保関地区（以下美保関とする）は、島根半島の東端に位置する漁業町で、海岸線に沿って町並みが展開する。美保関は、古来から海上交通の要衝であると共に、『古事記』の「国譲り神話」や、『出雲国風土記』にある「国引き神話」の舞台として知られ、また、事代主神と三穂津姫命を祀る美保神社を町の中心として発展した町である。なお、美保神社本殿は重要文化財として指定されている。

松江市は、松江市歴史的風致維持向上計画（第１期、平成23年認定）の中で、当地区を中心とした周辺区域を「重点区域（美保関エリア）」として位置づけ、以後美保関の歴史的建造物の実態把握のための調査や環境整備を進めている。2022年度からは、伝統的建造物群保存地区制度の適用を目指し、当地区の価値把握を目的として、奈文研に調査を委託した。調査は２か年計画とし、2022年度は現地調査として、悉皆調査と個別調査をおこなっている。

美保関の町並みの構成　　美保関は、島根半島東端部の南岸に位置し、南に美保湾、北は山間が迫る地理的環境である。町並みはほぼ海岸線に沿って設けられた本通りと、それに直交して山側に延びる谷筋の通りに面して展開する。本通りの海側には現在は県道２号線が整備されているが、これは昭和45年に新たに設けられた道路であり、それ以前は海側の建築の際に海岸線があった。そのため、現在でも海側の建築には、船を保管した船入を残す建物や、船を留めた石製の係留柱が残る。

地区内は、小路と呼ばれる５つの区に分かれている。東から、美保小路、月名小路、中浦小路、泊小路、西小路となり、各小路にはそれぞれ集会所を設け、正月の歳徳神神事の際に用いる神輿を安置する神輿蔵を持つ。美保神社のある泊小路には、大型の旅館が軒を連ね、美保神社から中浦小路の佛谷寺へまでの「青石畳通り」は、美保関の観光の中心地となっている。一方で、東の月名小路や美保小路は、漁業町としての性格を色濃く示すと同時に、北前船の停泊地として船宿をおこなっていた家も多く、美保関の町並みは、大型の旅館建築、船宿（兼住宅）、住宅といった大きく３種類の用途の建物を中心に形成されている。

神社は、泊小路の西端に美保神社が境内を構え、重要文化財の本殿以下、拝殿（登録文化財）、神門、回廊、社務所等、大正末期から昭和初期にかけておこなわれた境内拡張工事の際に造営された建物を中心に複数の建物があり、町並みの中やその背後の山間にも美保神社の末社が点在する。寺院は前述の佛谷寺を含め３件あり、いずれも町並みよりも山手にその境内を構えている。

美保神社と町並みの関係　　前述の通り、美保関は美保神社を核とする町であり、現在でも神社と地区の生活は文字通り密着している。

美保神社には、毎年４月におこなわれる青柴垣（あおふしがき）神事と、12月におこなわれる諸手船神事の２つの大きな神事があり、これらは美保関の住民が深く関わっている。神事の際には、美保神社から美保小路の東に位置する美保神社末社・客人社までの本通りを往来する。各住宅では、門飾り（青竹）を設置し、神事の舞台としても町並みが利

図１　泊小路（青石畳通り）の町並み

図２　中浦小路の町並み（頭屋の家に幟が立られらる）

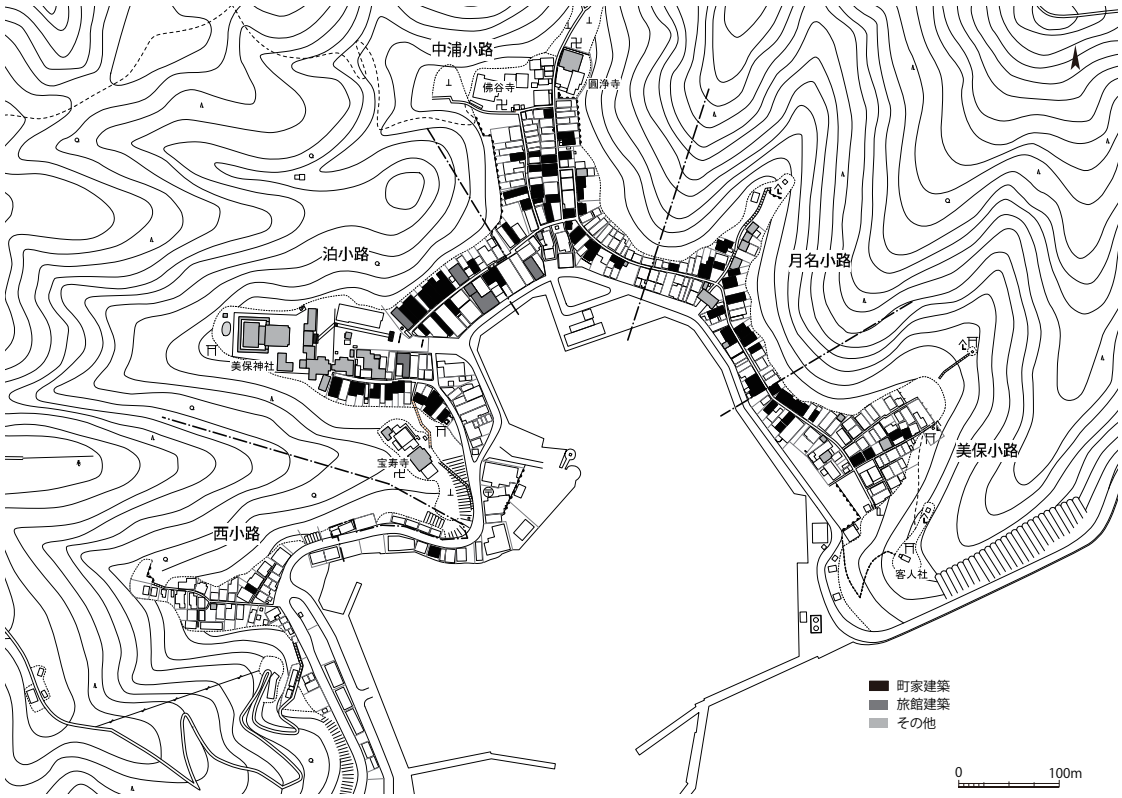

図３　調査地区全体図

用されている。また、美保関には當屋制度が踏襲されており、これらの神事は毎年交代で選ばれる頭人がその中心となっている。頭人に選ばれた者は、日々の潔斎や食事等の厳しい制約が求められ、さらに頭人の家では神棚に室礼を設けたり、「一度祭り」と呼ばれる頭人家で執りおこなわれる神事などもあり、文字通り神事と生活が密着している。

美保関の伝統的建造物　悉皆調査では、美保関内の建物全棟について、その構造形式、推定建築年代について、外部からの目視観察により調査をおこなった。調査では、全体で 398 件 497 棟を確認した。また悉皆調査の成果より、美保関の建築的特徴を示すとみられる物件を抽出し、個別調査をおこなった。2022 年度はそのうち 17 件 36 棟について個別調査をおこなった。

悉皆調査の結果、伝統的建造物特定物件の候補となる昭和前期以前と推定された建物を図３に示す。西小路を省いて、ほぼ地区の全域に伝統的建造物が分布していることがあきらかである。このうち、伝統的な町家形式の建物は、本通り沿いと中浦小路、泊小路に特によく残っていることがわかる。建築年代は、個別調査で近世末期の建築も確認しているが、多くの建物で大正から昭和初期にかけて改修がおこなわれているようである。これは、ちょうど港への船舶の乗り入れや、県道２号の整備の時期とも重なり、美保関への観光客の増加も関係しているものとみられる。

図４　月名小路の町並み

町家の建物は、切妻造平入２階建ての建物が基本で、表構えは１階を下屋とし、２階はその下屋の上に縁を設けたものが多いが、近世末期の住宅では２階縁は設けていない。明治中期の船宿をおこなっていた町家では、２階縁を１階下屋の屋根の上に設ける事例を確認したが、明治後期になると、１階下屋に架けた繋材の上に土居桁を架けてその上に２階縁を造る形式へと発展する。これも昭和初期になると、１階と２階の正面柱筋をそろえる形式へと変化している。

個別調査については、2023 年度も引き続きおこない、美保関の伝統的建造物の特徴とその歴史についてさらにあきらかにしていきたい。

参考文献

美保関町誌編さん委員会『美保関町誌　上巻・下巻』美保関町、1988。
『大美保関　―出雲国の玄関口―』松江歴史館、2017。